



UK IN JAPAN

PARTNERSHIP



令和2年度文化庁委託事業「戦略的芸術文化創造推進事業」

令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演

新国立劇場 2020/2021 シーズンオペラ

創作委嘱作品・世界初演

新制作

藤倉 大

# アルマゲドンの夢

A Dream of Armageddon

2020年11月15日(日)～23日(月祝)

会場:新国立劇場オペラパレス

2020年11月7日(土)発売

## 世界が注目、藤倉大待望の新作オペラ！

## ポピュリズムが世界を覆う今日、すぐそこに迫る脅威をスリリングに描く衝撃作。

新国立劇場では、新時代の旗手としてロンドンを拠点に旺盛な作曲活動を展開している作曲家・藤倉大の新作オペラを上演します。藤倉がオペラを手がけるのは3作目ですが、フルオーケストラと合唱を伴うオペラは今回が初。世界のオペラファン待望の藤倉大初の大規模オペラの世界初演に、内外から注目の声が寄せられています。

藤倉が選んだ題材は、20世紀初頭に書かれた H.G.ウェルズのSF短編『アルマゲドンの夢』。藤倉と長年共同作業をしているハリー・ロスが台本(英語)を手がけ、藤倉らしい大胆な発想でオペラ化。時空を自在に行き来しながら、忍び寄る全体主義と科学技術の発展がもたらす大量殺戮への不安を鋭くも描いた原作を脚色し、ポピュリズムが世界を覆う今日、現代を生きる我々のそばにある脅威をスリリングに描き出します。

演出は近年ドイツを中心に欧米の観客の熱烈な支持を受け、2018年のザルツブルク音楽祭『魔笛』で一躍世界のオペラファンの話題の的となった女性演出家リディア・シュタイアー。指揮は大野和士芸術監督自らがあたります。奇しくも世界を震撼させた新型ウイルスの脅威の下にある今日、今こそ上演意義のある『アルマゲドンの夢』世界初演にぜひご注目ください。

※新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式を考慮した演出により上演いたします。

※招聘スタッフ、キャストにつきましては、日本への出入国制限の状況により変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

## ～新国立劇場公式動画シリーズ 藤倉大×大野和士『アルマゲドンの夢』対談～

【前編】原作との出会い、作曲のエピソード、演出家リディア・シュタイアーについて etc

<https://youtu.be/TTr-0HFai04>

【後編】台本作家ハリー・ロス、作曲過程、映画「蜜蜂と遠雷」のエピソード etc

<https://youtu.be/CO0GHA6Mbc>



<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: [takanashi\\_y2525@nntt.jac.go.jp](mailto:takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp)

## 世界が注目、藤倉大待望の新作オペラ！

### ポピュリズムが世界を覆う今日、すぐそこに迫る脅威をスリリングに描く衝撃作。

新国立劇場は、ロンドンを拠点に世界中のオーケストラや歌劇場からの委嘱作を次々に発表し、音楽の新時代を切り拓いている作曲家・藤倉大の新作オペラを上演します。藤倉がオペラを大規模な管弦楽と合唱を伴うオペラを発表するのは今回が初。世界が渴望する藤倉大初の規模大オペラの世界初演とあって、内外から注目の声が寄せられています。

藤倉が選んだ題材は、20 世紀初頭に書かれた H.G.ウェルズのSF短編『アルマゲドンの夢』（邦題『世界最終戦争の夢』東京創元社刊／2020 年 9 月復刊予定）。藤倉と長年共同作業をしているハリー・ロスが台本（英語）を手がけ、藤倉らしい大胆な発想でオペラ化。時空を自在に行き来しながら、忍び寄る全体主義、そして科学技術の発展がもたらす大量殺戮への不安を鋭くも描いた原作を脚色し、ポピュリズムが世界を覆う今日、現代を生きる我々のそばにある脅威をスリリングに描き出します。

演出は、2018 年ザルツブルク音楽祭『魔笛』で世界的话题をさらったアメリカの女性演出家リディア・シュタイアー。指揮は大野和士芸術監督自らがあたります。

### オペラ『アルマゲドンの夢』の今日性

大野和士芸術監督が藤倉大に委嘱した際の新作の条件のひとつが「現代性のあるテーマ」。藤倉と台本作家ハリー・ロスは、大戦前夜の全体主義と大量殺戮に覆われんとしている世界を描いたウェルズの SF 短編『アルマゲドンの夢』に、ポピュリズムが世界を席卷する今日の状況を重ね、絶好の題材として創作に着手しました。その後イギリスではボリス・ジョンソンが首相に就き、EU 離脱を決定。藤倉は「**世界の状況がどんどんこの作品に近付いて、怖いくらいだ**」と言っています。更に 2020 年に入り、世界は新型コロナウイルスの脅威に震撼し、各国指導者の対応次第で明暗が分かれることにもなりました。夢のごとく幸福なカップルに、外界の強大な力の影が黒い染みのように広がり、やがて人類に破滅の悪夢が迫る…オペラ『アルマゲドンの夢』は、まさに今日上演されるべきドラマなのです。

### 国内外から激賞された『紫苑物語』に続き、新国立劇場が世界へ放つ新作シリーズ第 2 弾

日本人作曲家への新作委嘱は、大野和士芸術監督の掲げる第一の柱。第 1 弾として 2019 年 2 月に上演した『紫苑物語』（西村朗作曲）は、国内外のメディアを驚嘆させ、世界に通じる普遍的な力を絶賛された結果、世界のオペラの成果を表彰するインターナショナル・オペラ・アワード 2020（本部・イギリス）の新作部門ファイナリストに、世界 8 作品のうちの 1 本としてノミネートされました（受賞発表は新型コロナウイルス感染症の影響で延期）。『紫苑物語』の台本を手がけた佐々木幹郎氏は第 1 回大岡信賞を受賞。オペラパレスの満場の観客が大いに熱狂した『紫苑物語』に続き、新国立劇場から世界へ、知的興奮に満ちた日本人作曲家のオペラを発信します。世界的話題作の誕生は、同時代に生きる全てのオペラファン、音楽ファン、演劇ファン、文芸ファン必見です。

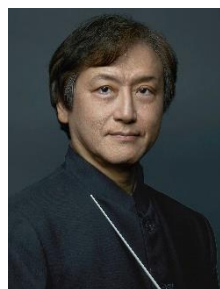


### <オペラ『アルマゲドンの夢』あらすじ>

大都市へ向かう通勤電車の中。若い税理士フォートナムは見知らぬ男クーパーに、その本は夢についての本かと問われる。訝しむフォートナム。クーパーは、夢と現実が入り混じることはないか、自分は夢の中で殺された、別の時間に生きていたのだと畳みかける。

クーパーは美しく聡明な妻ベラと新婚生活を送っていた。ダンスホールへ現れたインスペクターの扇動で、若者たちは戦争への恐怖を煽られ、ジョンソン率いる一派にあっけなく取り込まれてしまう。敢然と立ち向かうとするベラ。なだめるクーパーを、ベラは自由を求め戦おうと必死で説得する。やがて巨大な飛行機や戦艦が近づき、興奮が渦巻く中、爆撃が始まる。ベラが撃たれ、クーパーの腕の中で息絶える。

### 芸術監督のメッセージ



日本人作曲家委嘱シリーズ第2弾として、俊英、藤倉大氏に彼自身3番目となる新作オペラを委嘱しました。

彼が選んだ題材は、英国人のSF小説の父、H.G.ウェルズの小説『アルマゲドン（世界最終戦争）の夢』。ウェルズは未来を予言するような作品を次々と書きましたが、この『アルマゲドンの夢』は 1901 年に書かれながら、第一次世界大戦の大量破壊兵器や、第二次世界大戦に至るファシズムの到来、はたまた原子力による暴力までも不気味に予測した驚くべき作品。藤倉はこの作品のオペラ化に当たって、「通勤電車の中の会話として語られるこのドラマを、音楽によって」「夢の中あるいは覚醒状態の連続体のようにした」「オペラ特有の合唱という存在には、電車を降り降りする乗客や血に飢えた軍隊を想起させる役を与えた」と言っています。

シカゴ響やBBCプロムスなど世界的な楽団やフェスティバルからの作品委嘱が絶えない、また日本では子供から大人まで参加できる名物フェスティバル「ボンクリ・フェス」などで今日の音楽界を牽引するエネルギッシュな作曲家・藤倉の新作オペラの世界初演は必見です。

演出は、2018 年ザルツブルグ音楽祭で『魔笛』の演出を手がけたアメリカの女性演出家リディア・シュタイアー。世界の目が彼女に注がれている今、新国立劇場で新演出を迎えられることは大変幸運なことだと考えております。

大野 和士

### 作曲家からのメッセージ



『アルマゲドンの夢』は夢の物語であり、現実とは思えない世界を描いていますが、今日の社会にも強く結びついています。鏡のように、いまを映し出しているのです。

大野和士さんからの突然のメールで、僕の三作目のオペラ、それも合唱と管弦楽を伴うオペラの作曲を依頼された際、大野さんは現代に関連した物語を要望しました。

そこで僕は、H.G. ウェルズのこの短編がぴったりだと思ったのです。『アルマゲドンの夢』は2度の世界大戦よりも前に書かれた物語ではありますが、見知らぬ他人同士が電車内で交わす会話を通じて、戦時下における全体主義的な世界が描かれています。

僕はこの小説にすぐ夢中になりました。台本作家と僕は、通勤電車の場面で幕を開けるオペラを作りたいと、20年以上も思っていたのです！それから結局作らないままになっていたのですが、それは20歳の僕たちにはそのような作品委嘱の機会に恵まれなかったというだけでなく、電車の場面からどう物語を展開させていくか、うまく決められなかったからでもあります。

ですがいま、オファーをいただいて、僕たちの物語は、電車の会話から近未来を予言する奇妙な夢の物語へと発展していったのです。

今回のプロジェクトで一緒に取り組むのは、台本作家のハリー・ロスと演出家のリディア・シュタイアーです。ハリーとは20年以上、多くの作品を作ってきた間柄です。リディアとはここ数年、共同で創作できるプロジェクトはないか探っていました。彼女がもつヴィジョンであれば、僕の音楽を躍動させることができると感じていたからです。

この作品では、通勤電車内のコーラスが、血なまぐさい軍隊のコーラスへと変化します。そのコーラスは、僕たち全員の未来を予感させるものでもあります…

このオペラではどの場面でも、夢のような情景が浮かんでは消えていきます。何が事実で、何が想像なのか、判然としなくなるのです。

未来的な動く廊下のシーンや、ダンスホールでの、H.G.ウェルズによれば「言葉で説明できないような」未来のダンス音楽も、あります。

この未来の夢の世界には個性あふれる人物たちが登場し、彼らの感情や政治論が、叙情的なストーリーのなかで歌い上げられます。

この作品はオペラであるべきでした。

この作品は、夢であるべきでした。その夢から、目覚めることができればと願っています。

藤倉 大

### 台本作家からのメッセージ



“アルマゲドンの夢”が迫っています。目覚めなければ、その夢は現実になってしまうでしょう。

私がH.G.ウェルズの『アルマゲドンの夢』を翻案していたとき、ある出来事が私に影を落としていました。そのため、受け入れることのできなくなった国を飛び出して、ここ、ロッテルダムの家の机に向かい、自らに課した亡命生活を送っています。

イギリスで学生生活を送っていた頃、私はH.G.ウェルズを読んで育ちました。彼は典型的なイギリス人作家であり、先見の明を備えていましたが、その時代の産物と言える作家です。特に『アルマゲドンの夢』が発表された1901年を考えると、なおさらそう思えるでしょう。当時の大英帝国とその英国例外主義は絶頂を極めていました。普通選挙が実

現したのも、それから20年近く先のことです。

こうした当時の状況を推測しつつ、今回の『アルマゲドンの夢』には“リベラルなエリート”に対する私自身の考えを込めています。私たち“リベラルなエリート”は、行動を起こさず、現実を逃避して生活している点で、迫りくるアルマゲドンに直接的な責任があるのではないのでしょうか。外界から目を背けた私たちは、脆い泡の中で生きているようです。

行動を促すのは、クーパーではなくベラです。彼女はエリートの政治家の娘であり、あまり考えることなく、今こそ抵抗運動に加わるべきだと決めます。ニュースを読んで、出来ないことをブツブツ言っているだけではだめだと思うのです。ベラは、私が2000年代初頭に知り合いだった実在の人物に基づいて翻案しています。その人物は、スコッター活動(注: アナーキストらによる建物の占拠活動)をしていたアナーキストでした。彼女もまた、裕福で影響力のある実業家の娘でした。言うまでもなく、現在はもう活動家ではありませんが……。

戦争の場面では、扇動的な政治家に刺激されて熱狂する大衆の行動が、漫画やアニメのようだということを示そうとしています。私は3年間、



予備役の軍人をしていました。そのときの訓練や経験から言えるのは、戦争は驚くほど漫画的でカオスなものであり、人は簡単に唆されて、ぞっとするような振る舞いをしてしまうということです。私の父は職業軍人で、バルカン半島やアイルランドでの恐ろしい出来事を目撃してきました。どちらも、私が大人になってから起こったことですが、どうも私たちの記憶からすり抜けてしまっているようです。そして再び、こういったことが起ころうとしています。

大と私は、いくつかの異なる主義・思想を政治的に比較しつつ、その時々の実現や時代を超えて共通するものを見出そうとしました。扇動的な挽歌はまさに今日の言語にも、未だに根を下ろしているのです。私たちは、簡略化された単純な言葉の世界に生きています。「Take Back Control(注:EU 離脱派のスローガン<支配権を取り戻せ>、In This Together(注:キャメロン元首相が使用していたフレーズ<全員一緒に>)、For the Many not the Few(注:2017年の総選挙時にイギリス労働党が掲げたスローガン<少数のためではなく、多数のために>)——現在のイギリスがナショナリストの例外主義へ傾倒しているのは、左翼・右翼双方による、こうした挨拶文のような短い言葉のせいでもあります。私たち全員に責任があるのです。

私がこの作品を書いていた頃は、グレンフェル・タワーの火災の余波が残っていました。この事件は、私にとって遠い世界の出来事ではなかったのです。私は、その地域で行われていたフェスティバルのプロデューサーを務めていました。あるパフォーマーは高架橋の下に宿泊して作品を創作していましたが、それはグレンフェル・タワーから 200 メートルほどの場所でした。早朝、私は彼と共に彼の作品を撤収することを余儀なくされました。またパフォーマーの一人はグレンフェル・タワーに住んでいて、やはり避難を強いられました(しかし彼は煙を吸い込んだことにより、3 日後に亡くなりました)。また、フェスティバルで毎年行われる建築美術のディレクターをしている仲間が、地域のコミュニティ主導の救出活動に携わっていました。彼はこの夏、自殺しました。私もまた、48 時間家にも帰らず、一睡もせずに働き、イベントをキャンセルし、精神的なショックに苦しめられている友人や仕事仲間の支えになろうとしていました。それからの 14 日間は、ちょうど完成した建築パビリオンで、子供を対象としたワークショップの進行役を務めました。参加してくれた子供の多く、特に小さい子供たちが、燃えさかるビルから飛び降りる人々を絵に描いたのです。

まるで戦争のようでした。外界を閉ざした泡と無関心が招いた戦争。

私はクーパーやベラのように、この戦争から逃げていたのでしょうか？

私にとって、『アルマゲドンの夢』は起こり得る未来、ポピュリズムや弱腰の政治家、無気力で泡の中に住む都会人によって滅ぼされる未来なのです。クーパーは夢の中で、こうした未来について考える時間を得ます。70年後、私たちがみな死んだとき、こうした状況は再び起こるでしょう、そして再び同じような夢を見るでしょう。

ハリー・ロス、フェイエノールト、ロッテルダムにて

## 演出家からのメッセージ



巨大な不正に直面した時、私たちはいかに行動すべきなのでしょう？ 政治が激しく揺れ動いているときに、中立を保つのは可能でしょうか？ 公共の場で交わされる言論が、全体主義的な空気へ流れているときに、自分ひとりの殻に閉じこもり、何もしないでいるべきなのでしょう？ こうした疑問は、フェイク・ニュースが溢れ、政治的な結びつきが希薄になり、混沌に巻き込まれるのが必然に思える現在の社会では、容易に思い浮かぶでしょう。

またこのような疑問は、1901 年に出版された H.G.ウェルズの短編を元にした私たちのオペラ『アルマゲドンの夢』のまさしく中核をなしているのです。『アルマゲドンの夢』が私たちの時代に重なる側面を考えると、不安になり、驚くほど考えさせられます。

この小説は夢に蝕まれる男の経験を辿っています。彼はいわば、ことわざで言うところの「茹でガエル」です。軍事的な独裁政権が絶対的な権力を握ろうとしている、ディストピア的な夢の世界。その夢の世界での語り手は、かつて権力を握っていた政治家であり、危機が迫っているのに何もしないという道を選ぶ。その結果、その語り手の分身は、愛するものをすべて失い、自らの命すらもなくなってしまうのです。

私たちが政治の領域で何もしないと、権力に加担することになってしまう。その様相を社会全体で検証するよう、『アルマゲドンの夢』は要求していますが、藤倉大の全く新しい解釈によって、そのテーマが鮮明になりました。リブレット作者のハリー・ロスは、社会的に機能しなくなっている私たちの時代の言葉を劇中で引用して、『アルマゲドンの夢』は私たちの現実とかけ離れていないのだということを明確にしています。今回のプロダクションは、パーゼル歌劇場で上演されたシュトックハウゼンの「光」から『木曜日』のチームが制作します。このプロダクションは、オペラ専門誌 Opernwelt が選ぶ 2016 年の「プロダクション・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。斬新な映像技術と大胆な舞台美術を用い、現実が揺れ動く空間を生み出し、私たち自身と、私たちの内側に潜む暗い側面が、絶え間ない劇的緊張のうちに映し出されるでしょう。リディア・シュタイアー

## ＜プロフィール＞

## 【作曲】藤倉大

FUJIKURA Dai

1977年大阪に生まれ15歳で渡英。数々の作曲賞を受賞。国際的な共同委嘱も多数。オペラ作品の国際的評価も高く、2015年にシャンゼリゼ劇場、ローザンヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱による自身初のオペラ『ソラリス』をシャンゼリゼ劇場にて世界初演、18年にはアウグスブルク劇場で新演出上演された。また18年2作目のオペラ『黄金虫』を世界初演。14年に名古屋フィルハーモニー交響楽団の、17年にイル・ド・フランス国立管弦楽団のコンポーザー・イン・レジデンスに就任。17年に革新的な作曲家に贈られるヴェネツィア・ビエンナーレ音楽部門銀獅子賞を受賞。また同年から東京芸術劇場で開催している世界中の“新しい音”が集まる音楽祭「ボンクリ・フェス」の芸術監督を務めている。録音はソニーミュージックや主宰するMinabel Recordsから作品集が、楽譜はリコルディ・ミュンヘンから出版されている。



## 【台本】ハリー・ロス

Harry ROSS

トリニティ・カレッジ・オブ・ミュージックで声楽と作曲を学ぶ。在学中に、長年共同で創作を行うことになる藤倉大と出会い、以来、藤倉大の声楽作品の多くの詞を書く。作詞のほか、体験型あるいはサイトスペシフィック（アートにおいてある場の特性を活かした形態）なライブ作品のプロデューサー、クリエイティブ・ディレクターを務める。英国ロイヤルオペラ（リンパリー・スタジオ）における細川俊夫『リアの物語』英国初演を演出した後、スポレート音楽祭の芸術監督補（アソシエート・アーティスト・ディレクター）として活動しながら、グローブ座で作家デレク・ウォルコットが演出したオペラ『テベの埋葬』（シェイマス・ヒーニー作）のプロデューサーを務め、舞台デザイナーのヘレン・スカーレット・オニールとの創作活動を始める。オニールとの共同創作では、ロンドンの映像会社 Secret Cinema、ロンドン・コンテンポラリー・オーケストラ、英国国立公文書館、英国及びウェールズ・ナショナル・トラストへ作品を発表。英国のEU離脱を決めた国民投票後は、オランダへ移住。オランダデザイン・デジタル文化研究所の委員として、またフォンティス芸術学校で芸術研究を行っている。詩集『Waves Upoon Waves』はKnives Forks and Spoons pressから出版されている。



## 【指揮】大野和士

ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年イタリアのトスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。以後、世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、08～17年リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラではミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄モリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年、リヨン歌劇場はインターナショナル・オペラ・アワードで最優秀オペラハウスを獲得。同年フランス政府より芸術文化勲章オフィシエを受勲。同時にリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では、98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』を指揮。2021年7月には『カルメン』も指揮する予定。



## 【演出】リディア・シュタイアー

Lydia STEIER

アメリカのハートフォード出身。オーバリン音楽院で声楽を学んだ後、フルブライト奨学生として渡独。ベルリンのHAU劇場で演出した『The Lesson』、シカゴ、クリーヴランド、ニューヨーク、メキシコで上演した『Eight Songs for a Mad King』（P.M.デヴィス作曲）によるマルチメディア作品で注目を集め、ピッツバーグ・オペラ『皇帝ティの慈悲』『Brundibar』、ロサンゼルス・オペラ『ローエングリン』、ブレーメン歌劇場『蝶々夫人』、ワイマール・ドイツ国民劇場『メリー・ウィドウ』を演出。香港、ダブリン、ニューヨークのフェスティバルへも招待される。『トゥーランドット』（ブゾニ作曲）と『道化師』により、ラジオ局ドイチュラントラジオ・クルトゥアにより“今年のディスカバー”とされ、ポツダム市の『イエフタ』がウィーン芸術週間に招待される。「光」から『木曜日』（シュトックハウゼン）は、15/16シーズンOpernwelt誌年間最優秀演出賞に選出。オルデンブルク歌劇場『サウル』、マインツ歌劇場『ペレラ 煙の男』がファウスト賞ノミネート。最近の重要な作品には、ベルリン・コーミッシェ・オーバー『ジュリオ・チェーザレ』、ケルン歌劇場『トゥーランドット』、ザクセン州立歌劇場『トロイ人』、ザルツブルク音楽祭『魔笛』、フランクフルト歌劇場『オイディプス王ノイオランタ』、バーゼル歌劇場での『Diodati.Unendlich』（ミヒャエル・ヴェルトミューラー作曲）世界初演、ライン・ドイツ・オペラ『スベードの女王』がある。新国立劇場初登場。



## 【クーパー・ヒードン】ピーター・タンジツ

Peter TANTSITS

アメリカ出身。ベートーヴェン、ブリテン、ストラヴィンスキー、シェーンベルク、ベルク、ヤナーチェク、リヒャルト・シュトラウス、さらにルイジ・ノーノ、リゲティ、シュトックハウゼン、デュサパン、B.A.ツインマーマンなどをレパートリーにオペラ、コンサートで、バイエルン州立歌劇場、ケルン歌劇場、ミラノ・スカラ座、グラインドボーン音楽祭、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ベルリン・フィル、ゲヴァントハウス管弦楽団などで活躍。特に現代曲に重点を置き、最近ではザンクトガレン歌劇場『烙印を押された人々』（シュレーカー作曲）、ケルン歌劇場『軍人たち』などに出演。19年にはフランダース・オペラで『LES BIENVEILLANTES』（パーラ作曲）世界初演に出演し大成功を収めたほか、香港アートフェスティバルで『Madam White Snake』に出演した。20年2月には、『地下の国のアリス』（パーラ作曲）で英国ロイヤルオペラにデビューした。新国立劇場初登場。



**【フォートナム・ロスコー／ジョンソン・イーヴシャム】セス・カリコ****Seth CARICO**

力強い声とダイナミックなプレゼンス、オペラへの独特の感性で評価されるアメリカの若手バスバリトン。2010年から19年までベルリン・ドイツ・オペラ専属歌手として、『フィガロの結婚』フィガロ、『ユグノー教徒』サン・ブリ伯爵、『ヴェニスに死す』旅人、『神々の黄昏』グンター、『ピリー・バッド』レッドバーン、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』警官、『パルジファル』クリングゾル、『愛の妙薬』ドゥルカマール、『西部の娘』ソノーラ、『サムソンとデリラ』アビメレクなどに出演、15年『オレステイア』カッサンドラでドイツの「ファウスト賞」最優秀男声歌手にノミネート。18/19シーズンは同劇場で『ヴォツェック』医者、『マクローブス事件』コレナティ、『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、『ドン・キホーテ』サンチョ・パンサに出演したほか、バーゼル歌劇場『Diodati. Unendolich』（ヴェルトミューラー作曲）世界初演、エッセン・アールト劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロにも出演。19/20シーズンはハノーファー歌劇場『トスカ』スカルピアに出演。20/21シーズンはクラゲンフルト歌劇場『エレクトラ』オレスト、ハンブルク歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、ベルリン・ドイツ・オペラ『フィデリオ』ドン・ピツァロなどに出演予定。新国立劇場初登場。

**【ベラ・ロジツァ】ジェシカ・アゾーティ****Jessica ASZODI**

オーストラリア出身。ジャンルやレーベルを超え、埋もれた作品の復活から新作初演、スタンダードなオペラから多ジャンルのコラボレーションまで幅広く活動。メルボルン響、シドニー響、アデレード響、シドニー・ピンチガッド・オペラ、チロル響、ヴィクトリア・オペラ、シドニー・チェンバー・オペラ、シカゴ響などに、シュトゥットハウゼンの「光」から『木曜日』のイヴ、サティ『ソクラテス』タイトルロール、モーツァルト『羊飼いの王様』アミンタ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『ジュリオ・チェザレ』セスト、ウォルトンの『熊』ボポーヴァ、カーター『What Next?』ローズ、『ナクス島のアリアドネ』エコーなどで出演。ボンのベートーヴェン音楽祭、ビビッド・シドニー、ベンディゴ国際音楽祭、メルボルン・フェスティバル、アデレード・フェスティバル、オールドバラ音楽祭、タングルウッド音楽祭などにも出演。オーストラリアのリゾナント・ボディ・フェスティバルの共同ディレクター、ベンディゴ国際音楽祭アーティストティック・アソシエイト。2017年にはシカゴのハイ・コンセプト・ラボのアーティスト・イン・レジデンスに参加。最近ではシドニー・オペラハウスでリザ・リンがアゾーティのために作曲した『Atlas of the Sky』、ウィーン・フォルクスオーパーのミュージカル『Brigadoon』などに出演。新国立劇場初登場。

**【インスペクター】加納悦子****KANOH Etsuko**

東京藝術大学、同大学大学院を修了後、ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。ケルン歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど40以上の演目に出演。国内ではNHK 交響楽団などとの共演や、二期会、びわ湖ホールオペラなどで活躍。最近では2013年9月びわ湖ホール・神奈川県民ホール共催『ワルキューレ』フリッカを演じた。新国立劇場では『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズ、『魔笛』侍女Ⅱ、『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『サロメ』ヘロディアスの小姓、『セビリアの理髪師』ベルタ、『神々の黄昏』ヴェルグンデなどに出演している。13年10月文化庁芸術祭オープニング公演でエルガー『海の絵』を独唱して、高い評価を得ている。ソロCD「メアリ・スチュアート女王の詩」(ALM RECORDS)は13年度レコードアカデミー賞声楽部門受賞。令和元年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。二期会会員。

**【歌手／冷笑者】望月哲也****MOCHIZUKI Tetsuya**

東京藝術大学卒業、同大学院修了。在学中に安宅賞、松田トシ賞受賞。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科にて研鑽を積む。第35回日伊声楽コンクール第3位。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第2位。第70回日本音楽コンクール第2位。これまでに『椿姫』アルフレード、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『フィガロの結婚』バジリオ、『アラベッラ』エレメル伯爵、『トリスタンとイゾルデ』牧童、『サロメ』ナラポート、『さまよえるオランダ人』舵手、『ピーター・グライムズ』ホレーズ・アダムス、『タンホイザー』ヴァルター、『魔笛』タミーノ、『夜叉ヶ池』晃、『ヴォツェック』アンドレス、『夕鶴』与ひょう、『マノン・レスコー』エドモンド、『ローエングリン』ブラバンドの貴族Ⅰなどに出演した。二期会会員。





新国立劇場 2020/2021シーズン  
 令和2年度文化庁委託事業「戦略的芸術文化創造推進事業」  
 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演  
**アルマゲドンの夢**  
 新制作・創作委嘱作品・世界初演  
 FUJIKURA Dai / A Dream of Armageddon  
 全9場<英語上演/日本語及び英語字幕付>

【公演日程】2020年11月15日(日)14:00/18日(水)19:00/21日(土)14:00/23日(月祝)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:22,000円・A:16,500円・B:11,000円・C:6,600円・D:3,300円・Z:1,650円

【前売開始】11月7日(土)

※チケット発売日は当初発表から変更となりました。

※招聘スタッフ、キャストにつきましては、出入国制限の状況により変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

|                   |                                                              |                                  |                   |
|-------------------|--------------------------------------------------------------|----------------------------------|-------------------|
| 台本                | ハリー・ロス<br>(H.G.ウェルズの同名小説による)                                 | クーパー・ヒードン                        | ピーター・タンジツ         |
| Libretto by       | Harry ROSS                                                   | Cooper Hedon                     | Peter TANTSITS    |
|                   | (after the short story "A Dream of Armageddon" by H.G.WELLS) | フォートナム・ロスコー/ジョンソン・イーヴシャム         | セス・カリコ            |
| 作曲                | 藤倉 大                                                         | Fortnum Roscoe / Johnson Evesham | Seth CARICO       |
| Composed by       | FUJIKURA Dai                                                 | ベラ・ロジリア                          | ジェシカ・アゾーディ        |
|                   |                                                              | Bella Loggia                     | Jessica ASZODI    |
| 指揮                | 大野和士                                                         | インスペクター                          | 加納悦子              |
| Conductor         | ONO Kazushi                                                  | The Inspector                    | KANOH Etsuko      |
| 演出                | リディア・シュタイアー                                                  | 歌手/冷笑者                           | 望月哲也              |
| Production        | Lydia STEIER                                                 | The Singer / The Cynic           | MOCHIZUKI Tetsuya |
| 美術                | バルバラ・エーネス                                                    |                                  |                   |
| Set Design        | Barbara EHNE                                                 |                                  |                   |
| 衣裳                | ウルズラ・クドルナ                                                    |                                  |                   |
| Costume Design    | Ursula KUDRNA                                                |                                  |                   |
| 照明                | オラフ・フレーゼ                                                     |                                  |                   |
| Lighting Design   | Olaf FREESE                                                  |                                  |                   |
| 映像                | クリストファー・コンデク                                                 |                                  |                   |
| Video             | Christopher KONDEK                                           |                                  |                   |
| ドラマトルク            | マウリス・レンハルト                                                   |                                  |                   |
| Dramaturg         | Maurice LENHARD                                              |                                  |                   |
| 合唱指揮              | 富平恭平                                                         |                                  |                   |
| Chorus Master     | TOMIHIRA Kyohei                                              |                                  |                   |
| 合唱                | 新国立劇場合唱団                                                     |                                  |                   |
| Chorus            | New National Theatre Chorus                                  |                                  |                   |
| 管弦楽               | 東京フィルハーモニー交響楽団                                               |                                  |                   |
| Orchestra         | Tokyo Philharmonic Orchestra                                 |                                  |                   |
| 芸術監督              | 大野和士                                                         |                                  |                   |
| Artistic Director | ONO Kazushi                                                  |                                  |                   |
| 後援                | ブリティッシュ・カウンシル                                                |                                  |                   |

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/armageddon/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット

- \* Z席 1,650円: 公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。
- \* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(小中学生20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引(5%)など各種割引あり。
- \* 未就学児入場不可。

\* 本公演は、新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策をとって上演いたします。

\* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い

[https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23\\_017576.html](https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html)

新国立劇場 〒151-0071 東京都渋谷区本町1-1-1 <https://www.nntt.jac.go.jp>